

栗林公園北庭「お手植松」の案内板の変更

栗林公園北庭にある5本のお手植松について、その配置を記載した案内板を変更しました（別添1）。

○ 北庭のお手植松は6本植樹された記録があり、現在は5本残っています（別添2）。

- ・大正3（1914）年 昭和天皇
やすひと
雍仁親王（秩父宮）
のぶひと
宣仁親王（高松宮）
- ・大正11（1922）年 エドワード8世（皇太子のとき）
- ・大正12（1923）年 香淳皇后
- ・大正14（1925）年 よしひさ
能久親王妃富子（北白川宮）

○ これらのお手植松は、大正3年から植樹された経緯の中で、県では、少なくとも昭和42年頃から、昭和天皇のお手植松を一番北側とする次の配置であると考えていました。

昭和天皇（※）→雍仁親王（秩父宮）→宣仁親王（高松宮）

→エドワード8世→香淳皇后→能久親王妃富子（北白川宮）

（※ なお、平成17年に一番北側の松が落雷を受けて枯死した際、昭和天皇のお手植松が枯死した旨を公表し、「昭和天皇お手植松跡」の案内板を設置していました。（別添3）

○ しかし、令和元年11月に県民からお手植松の配置の調査を求めるとご意見が寄せられ、県で過去の資料等を調査したところ、上記の配置ではない可能性が高くなったため、令和2年5月に「昭和天皇お手植松跡」の案内板を撤去し、また同年6月には配置を特定しない内容に案内板を修正するとともに（別添4）、調査を継続していました。

また、本年6月県議会でも案内板の修正を求める陳情が採択されました。

○ 調査の結果（別添5）、次のとおり一番北側を香淳皇后のお手植松とする配置と推定するに至り、案内板を変更しました。

香淳皇后（落雷で枯死）→宣仁親王（高松宮）→昭和天皇

→雍仁親王（秩父宮）→エドワード8世→能久親王妃富子（北白川宮）

お手植松

O-teue-matsu Pine Trees

前に並んでいる背丈の高い5本の松は、次の方々が来園を記念してお手植えされた松であり、配置は 向かって右から

- ・ 宣仁親王（高松宮）（大正3年）
- ・ 昭和天皇（大正3年）
- ・ 雍仁親王（秩父宮）（大正3年）
- ・ エドワード8世（大正11年、皇太子のとき）
- ・ 能久親王妃富子（北白川宮）（大正14年）

令和4年8月調査結果による

The five tall pine trees that stand in front of you were planted by members of the Japanese Imperial Family and the British Royal Family to commemorate their visits to the garden between 1914 and 1925.



【現在のお手植松写真】



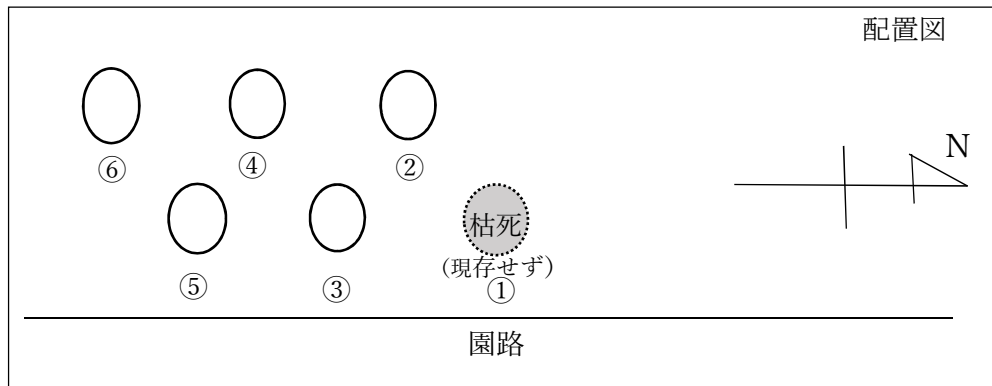
- ①香淳皇后(枯死)
- ②宣仁親王(高松宮)
- ③昭和天皇
- ④雍仁親王(秩父宮)
- ⑤エドワード8世
- ⑥能久親王妃富子(北白川宮)

落雷による枯死後（平成 17 年）～ 令和 2 年 5 月まで設置



令和 2 年 6 月以降に設置

お手植松配置の推定について（調査結果）

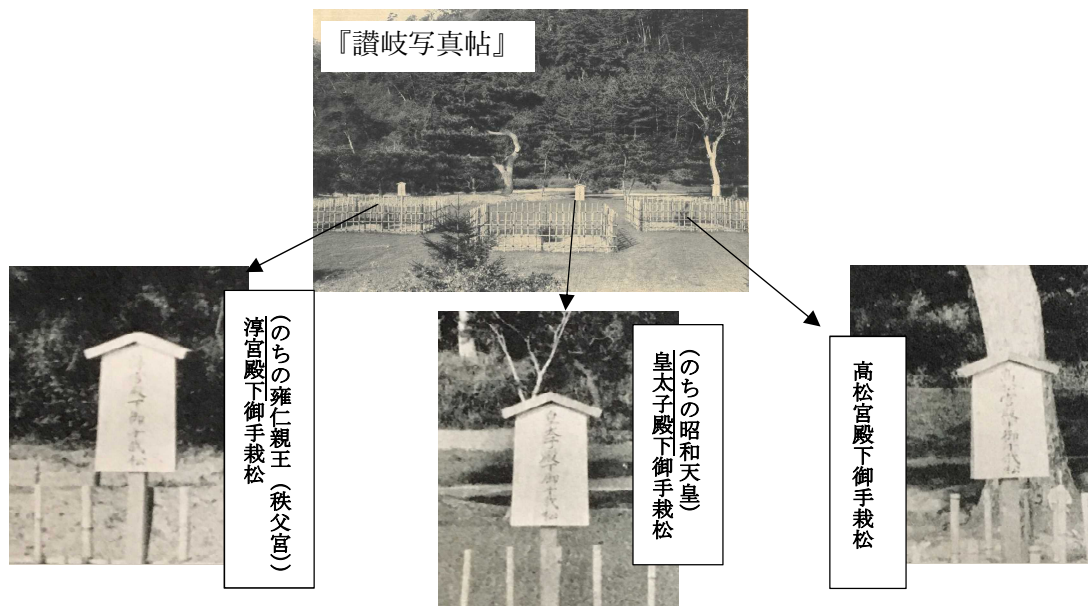


1 「常陸宮同妃両殿下御日程（昭和42年6月作成）」では、上図①～⑥の配置は次のとおり記載されている。

・昭和天皇	【大正3（1914）年3月21日植樹】	・・・①
・雍仁親王（秩父宮）	【同上】	・・・②
・宣仁親王（高松宮）	【同上】	・・・③
・エドワード8世	【大正11（1922）年5月6日植樹】	・・・④
・香淳皇后	【大正12（1923）年5月10日】	・・・⑤
・能久親王妃富子（北白川宮）	【大正14（1925）年12月7日】	・・・⑥

2 令和元年以降、県が改めて調査した結果は次のとおり。

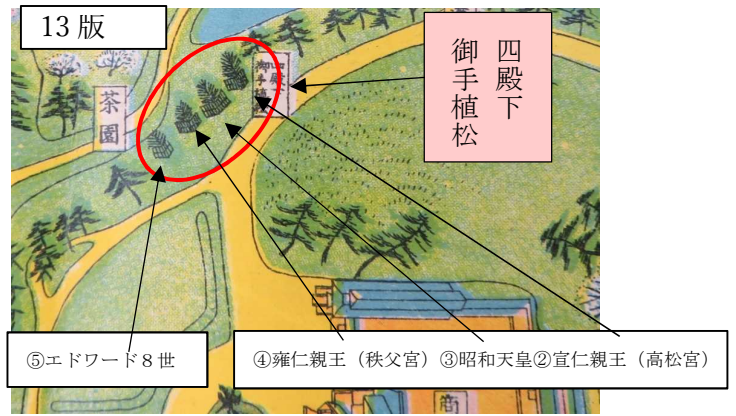
(1) 『讃岐写真帖（大正5年発行）』に、大正3年に植樹された3本の松の写真が掲載され、3本の松の立札の文字から中央の松は昭和天皇（当時は皇太子）の植樹であることが確認でき、また他の2本より手前に位置して逆三角形を形成していること等から「②宣仁親王（高松宮）③昭和天皇④雍仁親王（秩父宮）（推定1）」又は「④宣仁親王（高松宮）⑤昭和天皇⑥雍仁親王（秩父宮）（推定2）」と推定できる。



(2) 次に、栗林公園の案内図である「栗林公園真景」の7版（大正8年3月発行）及び13版（大正12年5月1日発行）を比較すると、13版ではお手植松が1本増え4本となり、その松が一番南側に書き加えられていることから、南側に植樹がない上記推定2は成り立たないと考えられる。

また、7版の発行後、13版発行までの間に4本目の松をエドワード8世が植樹されているが、5本目の松（香淳皇后）はまだ植樹されていないため、この4本の松は「②宣仁親王（高松宮）③昭和天皇④雍仁親王（秩父宮）⑤エドワード8世」と推定できる。

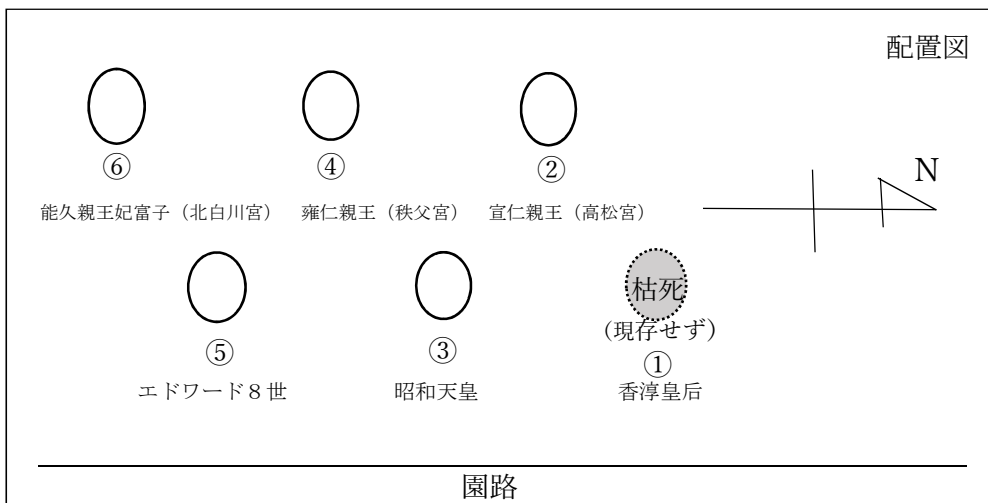
「栗林公園真景」 (部分)



(3) 更に、「良子女王稚松御手植」写真 (中西勉編著『造園史』495頁) 及び上記『讃岐写真帖 (大正5年発行)』に掲載されている香淳皇后 (当時は久邇宮良子女王) の植樹の写真と比較したところ、背後にある樹木がその形状から同一であることから、②の北側の①が香淳皇后の植樹と考えられ、その結果残る⑥が能久親王妃富子 (北白川宮) の植樹と推定される。



3 上記調査より、次の配置と推定される。



掲載資料出典

「常陸宮同妃両殿下御日程」(昭和42年、栗林公園観光事務所蔵)

『讃岐写真帖』(大正5年、香川県立ミュージアム蔵)

「栗林公園真景」7版 (大正8年、栗林公園観光事務所蔵)

「栗林公園真景」13版 (大正12年、香川県立図書館蔵)

「良子女王稚松御手植」写真 (中西勉編著『造園史』平成16年 所収)